舞い上がれ
社会を変える
みんなの力
休眠預金を活用した事業です

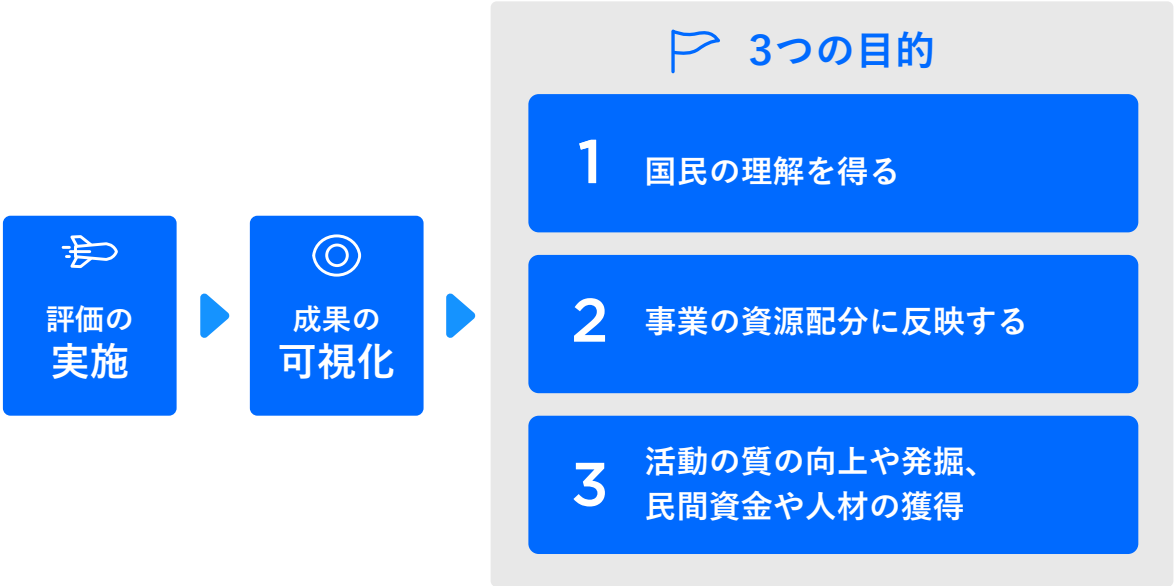
休眠預金活用における社会的インパクト評価

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構（JANPIA）

1　休眠預金活用における評価の目的

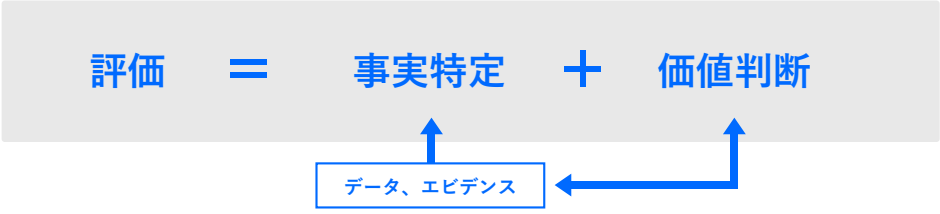
はじめに、休眠預金活用法における制度（以下「本制度」）の「評価の目的」を確認しましょう。

本制度における評価は、活動の成果を検証・可視化し、３つの目的に活用することを想定しています。



評価とは

評価とは、正確な事実を特定し、それをもとに事業の優れた点や有用性、価値を判断していくプロセスです。



評価にはさまざまな目的がありますが、本制度が特に大切にしているのは、**評価を通じてしっかり事業を改善していくこと、それにより、事業の価値をさらに高めていくこと**です。

2　社会的インパクト評価の定義

「社会的インパクト評価」とは？

短期･長期の変化を含め､当該事業や活動の結果として生じた社会的･環境的な「変化」や「便益」などの「アウトカム（短期･中期･長期）」を､定量的･定性的に把握し､当該事業や活動に価値判断を加えること｡「インプット」「活動」「アウトプット」から「アウトカム（短期・中期・長期）」に至るまでの論理的な結びつきを明らかにしたうえで、計画、実行、分析、報告・活用の４つの評価過程を経て実施される。

この定義の中には、今後、評価を進めるうえで押さえておきたい、以下の３つのポイントがあります。

1 アウトカム　　**アウトカムは、社会に起こる望ましい変化、社会的課題が解決された状態、受益者や関係者、地域や環境への変化を指す。**

2 論理的な結びつき　　**アウトカムだけを見るのではなく、問題解決に至るまでの事業のニーズ・セオリー・プロセスを可視化し、検証・改善していく。**

3 定量的・定性的に把握　　**定量と定性の情報は相互に補完するものと捉え、定量と定性の両方の情報を把握していく。**

ひとこと解説

定量と定性
定量とは「状況や状態を数値化して表す」こと。数値化することで、客観的に成果を認識することができます。定性は「数値では表せない状況や状態の質を表す」ことです。物事を定性的に把握すると、意味や関係性､狙いといった､数値では表しにくい「質」の要素をしっかりと認識することができます。たとえば、定量データは「信頼できる大人がいる」と答える生徒の人数や割合のように数値化された情報、定性データは「学校活動への自発的な参加事例」のように具体的な質を確認できる情報を指します。

3　休眠預金活用における評価の特徴

本制度における社会的インパクト評価の主な特徴を紹介します。

休眠預金活用事業における社会的インパクト評価の特徴

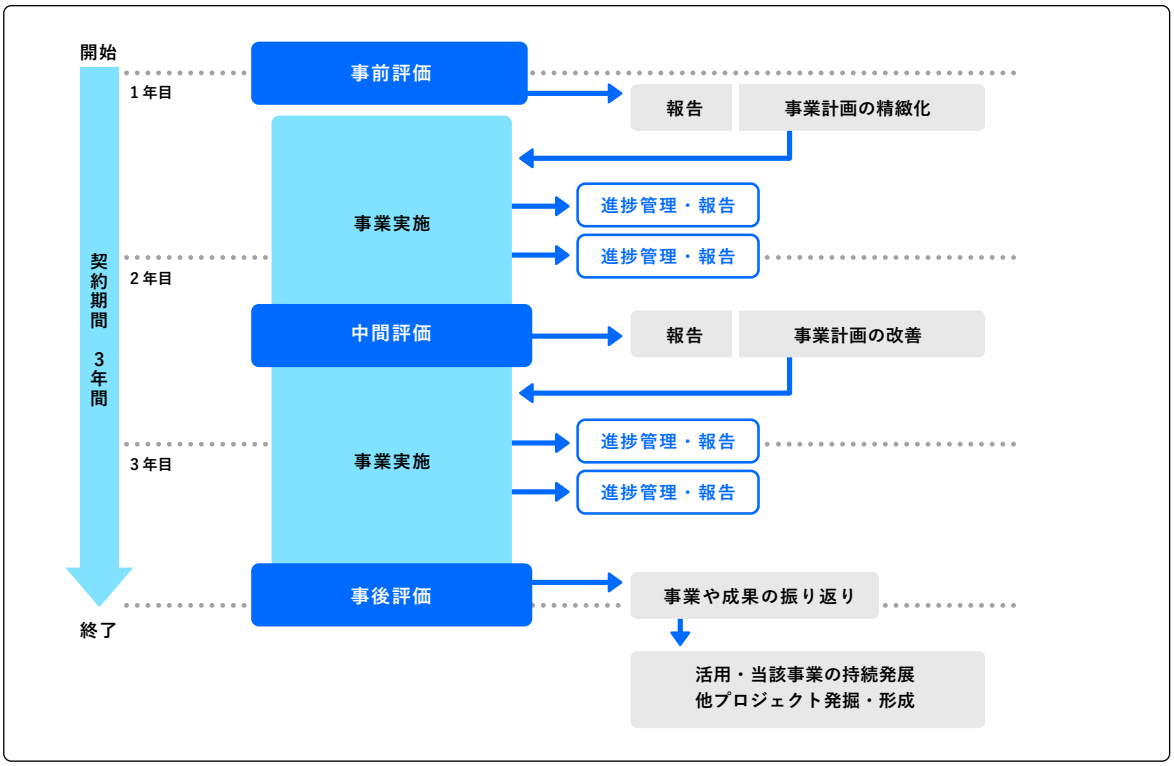
1. 自己評価が基本
2. 評価の実施時期は原則３回
3. 「評価の５原則」による評価の質の担保

1 自己評価が基本

評価の客観性や正当性を確保するという前提で、評価の全過程において、事業の実施主体が自ら行う「自己評価」を基本としています。また、必要に応じて、資金分配団体が実行団体の自己評価を伴走支援します。そのうえで、実行団体の評価報告は資金分配団体が点検・検証を行い、事業の改善や広報（説明）などに有効活用することを目指します。

2 評価の実施時期は原則３回

「事前評価」「中間評価」「事後評価」を実施します。



「事前評価」の主な目的は、**事業を実施する前に事業の必要性・妥当性を判断すること**です。
事前評価を経て精緻化された事業計画は、事業開始後の進捗管理やその後の評価の土台となり、事業を適切に運営・管理していくうえでとても重要になります。

「中間評価」の主な目的は、**事業計画の改善**です。事業の実施状況を確認し、事業目標の達成見込みを高めるためにはどのように事業を改善すべきかを明確にします。

「事後評価」の目的は、**成果の達成状況や事業の妥当性を現状や実績に基づいて検証すること**です。評価によって可視化された成果や課題は積極的に発信していき、分野全般の質の向上や次の展開へとつなげていきます。

ひとこと解説

評価の実施は原則３回ですが、評価のための調査活動や事業改善への取組みは、活動中、継続的に行ってください。また、社会状況の変化や天災などの外部要因によって事業計画の実施が困難になった場合には、評価実施時期ではなくとも、事業計画の見直しのために評価を実施することをおすすめします。お悩みの際は、資金分配団体や JANPIA にいつでもご相談ください。

3 「評価の５原則」による評価の質の担保

「評価の５原則」は、評価の質を担保するために考慮するべき視点です。本制度では、事業の多様性を念頭に、評価においても多様性を尊重したいと考えています。しかし一方で、評価には一定の考え方や方法があることも事実であり、本制度における評価では、そうした考え方を「評価の５原則」として整理しました。

評価の５原則

1	多様な関係者の参加、連携、協働	多様な関係者の幅広い参加、連携、協働	多様な関係者が参加していることは、評価の質を高めます
2	信頼性	信頼できる方法で収集するなど、適切な情報を使用する	信頼性の高い情報で評価しましょう
3	透明性	活動状況や調査、成果などは、正確かつ誠意ある情報開示、説明や報告を行う	情報の開示は正確にわかりやすく行いましょう
4	重要性	事業を遂行するうえで重要な事項や、組織内外の関係者の意思決定に役立つ事項など、特に重要と判断される項目を選択して評価する	事業の中で特に重要な内容についての評価を優先しましょう
5	比例性	組織の規模、資源や目的などに応じて、評価方法や報告・情報開示の方法を選択する	組織の背丈にあわせた等身大の評価を行いましょう

ひとこと解説

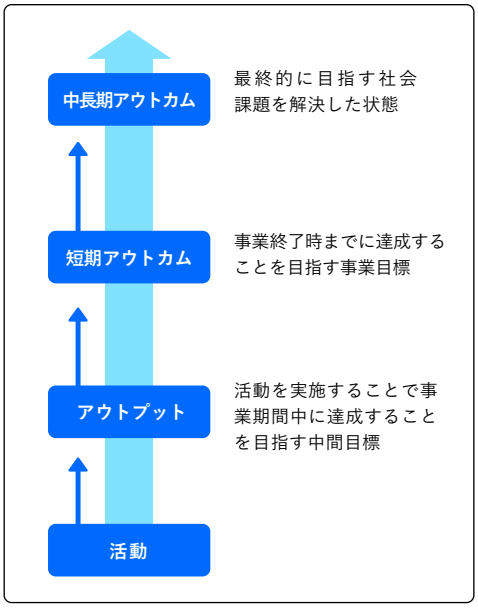
評価結果の有効活用を促すために、資金分配団体が「評価の５原則」に沿って評価報告書の点検・検証を行います。資金分配団体とも積極的に対話をし、事業の改善に評価を活用してください。

4 休眠預金活用における事業

「アウトカム」と「アウトプット」

事業とは、特定のアウトカム（社会に起こる望ましい変化、社会課題が解決された状態）を実現するための一連の活動群と、それらの活動を行うための仕組みや資源（組織、人、予算など）を含む取組み全体を指します。

本制度では、事業計画において、アウトカムを実現するための一連の活動を、**活動→アウトプット→短期アウトカム→中長期アウトカム**として整理します。短期アウトカムは、事業終了時までに達成を目指す事業目標を指し、受益者や関係者、地域や環境へもたらす望ましい変化や便益を記載します。中長期アウトカムは、最終的に目指す社会課題が解決された状態を指します。



事例紹介

「犯罪を犯した依存症者の支援拠点づくり事業」（特定非営利活動法人ジャパンマック）

これまで「犯罪者」としか捉えられていなかった依存症者に、回復の方法があることを知ってもらい、一人の人間として地域社会で孤立せずに暮らしていけることを目指し、当事者の回復支援を中心に、家族への回復支援、関係機関との連携・普及啓発を行う事業です。事業で整理した活動・アウトプット・短期アウトカム・中長期アウトカムの概要は以下のとおりです。

中長期アウトカム

罪を犯した依存症者が依存症から回復し、再び犯罪に至らない生活を地域で送れるようになる

	家族	関係者	当事者
短期アウトカム	罪を犯した依存症者の家族が、孤立から抜けだし、依存症の知識を身につけることにより、本人への支援環境が改善する	罪を犯した依存症者が依存症支援機関に繋がる状態になる	罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、回復の道を歩むようになる
アウトプット	・パンフレットの送付数、送付箇所 ・罪を犯した依存症の家族で相談・支援をした人数	・セミナー開催数 ・検討委員会の開催回数 ・セミナーや検討委員会に加入する関係機関、団体数およびその構成	・回復支援教材の作成状況 ・紹介や相談を受けた依存症者の数
活動	・相談センターを開設し、周知用パンフを作成、支援専門員を雇用する ・希望される家族には本人との面談を行う ・家族会や社会資源、医療の紹介を行い、可能な限り同行支援を行う ・家族の疲弊や不安緩和のための心理面接を行う ・定期面談を行い、当事者の状況に応じた対応ができるように支援を行う	・警察、検察、司法関係者、医療関係者、福祉関係者の検討委員会をつくる ・検討委員会を定期的に開催し、事業実施状況を報告、事業の改善を行う ・検討委員会メンバーによる周知活動を実施する ・関係機関職員向けセミナーを開催する	・相談センターを開設し、支援専門員を雇用、職員研修の実施、教材の作成、依存症者への支援を開始する ・回復支援計画を作成し、継続的に支援を実施する ・支援方法の定期的な見直しや改善を行う